

(ig 日本国特許庁 (JP)

up.特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭55—147295

€tlnt. Cl.3 C 07 F 9/09

# A 61 K 31/685

識別記号 ACB

庁内整理番号 7311 4H 6617 -4 C

49公開 昭和55年(1980)11月17日

発明の数 1 審查請求 有

(全 2 頁)

のジホスホグリセリン酸塩の製法

20特

顧 昭55-6507

23H1

願 昭50(1975)3月20日

62特

願 昭50-33747の分割

⑩発 明 者 松村進午

京都市南区吉祥院西ノ庄門ロ町。 14番地日本新薬株式会社内

79発 明 者 模本宏

京都市南区吉祥院西ノ庄門ロ町 14番地日本新藥株式会社内

加出 願 人 日本新薬株式会社

京都市南区吉祥院西ノ庄門ロ町

14番地

砂代 理 人 弁理士 片岡宏

明細書の浄古(内容に変更なし)

ジネスルグリセリン酸塩の製法

23-ジホスホグリセリン酸化。2.6-ピスー(ジエタ 数1ビリミジンを反応させること数より成るスキージャス 1字打正

23ージホスホグリモリン酸は最生物。積物シェび哺乳 動物等化広く分布し、毎に哺乳動物の赤血球に多盤に存在

本原制性との23~ジホスホダリモリン構に26 - ビス 1701

本発射によって何られる23ージホスホグリセリン酸の 塩は新規な化合物であり、2.3 - ジホスホグリセリン酸の 生理活性作用(特化直栓形成因止作用)を相関的に増性す

るものであり、動脈血栓症、狭心症、或は動脈硬化性疾患 の治療器として、又血療透析時の最直防止剤として他めて

本見明によって製造される化合物の化学的作状を表した

1 分析值(N%) 塩基名 生成塩の分子式 計算權 突動機

26-42-( )IF/-NT: ノリー48-ジビベリンノビリミ Conllan No. Po.O. 1455 1503 F-(54-80 81622

1971E

本発明によって得られる化合物の血小板製築抑制効果を

Aggregometer を用いた透過度の変化を集1回に示した。 円形キュペット化モルモット Platelet rich Plaama (PRP) 0 8 叫及び被検推 0.1 叫又は生食(コントロール として)01㎡を加え金量1㎡とし、側足した。側定は 3.7 でで約3000 ppm 根押下に行なった。

本発明によって得られる化合物は優れた血小虫要集抑制 作用を示し、その作用は、 2.キージホスホグリセリン酸と 28…ビスー( フェタノールアモノ ) - 48…ジビベリジ

(2)

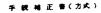
ノ ビリミドー ( 5.4 - Q ) ビリミジン塩の双方をはるかに - /字訂正

以下に本発明を実施例によってさらに詳細に説明する。

2.6 - ビスー(ジエタノールアミノ) - 4.8 - ジビベリ シノビリミドー(5.4-Q)ビリミジンも子をエタノール /字打匠 9 のエタノール密策を加えると橙黄色の結晶が析出してく ~ る。多量のエタノールから再始品すると黄色結晶として2 フミノ)-4.8-ジビベリジノビリミドー(5,4-Q)ビ /字訂正 リミツン塩 m.p. 2500以上(分解) 8 分が待られる。

第1関はモルモット血小板最美化対する23ージホスホ グリセリン腰の 2.8 ービスー(ジエタノールアミノ) - 4. 8-ジビベリジノビリミドー(5.4-Q)ビリミジン塩の 1等打配 作用を示す。国中,1はコントロール,2は28-ジホス ホグリセリン数(50mg), 3 は2.8 ーピスー(ジエタノ -ルブミノ)-48-クピペリタノビリミドー(5.4-W) 1971年

(3)



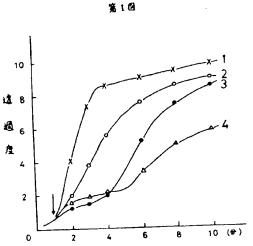
**№№**55♥8**№**48

科斯的55-147295 (2)

ビリミジン(100m9)、 4はフホスホグリセリン使の2

6 - ビスー(ジエタノールアミノ) - 4.8 - ジビリジノビ リミドー (5.4-04) ビリミジン塩 (50μ9)を扱わす。 下口证

矢印はノルエピネフリン( 5 AM)を影加した時点を扱わす。



甲601 京都市南区吉祥院西ノ庄門口町1 4 香地 4.代理人 甲601 京都市南区吉祥院防ノ庄門口町14番地